

# デーリー東北

2021年(令和3年)11月11日(木曜日) (19)

## 私見創見 Thursday

9月のニュースで、経済協力開発機構(OECD)が加盟各国の大学など高等教育機関の入学者に占める女性割合を調べたと、理系分野で日本は平均を大きく下回ったことが報じられた。自然科学・数学・統計学ではOECD

の平均が52%に対して、日本は26%。工学・製造・建築でこれら2分野では、36%。国中最低だった。理系分野での女性の割合が低いため、時に命にかか

わることもある。医学分野の治験では、被験者が男性だけだったため、ある薬の女性への反応の危険性が分からなかった例がある。また、自動車の衝突事故実験のダミー人形のほとんどは男性の体をモデルにしており、女性や妊婦さんについて検討されていなかったという例もある。文部科学省や内閣府では、理系の女子学生を増やす試みをしており、私の所属する八戸工業大学でも、「HYPER KEYLABO(ヒットリケ ショラボ)」という会を組織し、理系進路を目指す小、中、高校生への支援をはじめたところだ。調べるほどに、日本の社会や大人たちが女性の理系進路の選択を阻むという要因があるように感じる。

### 理系女性少ない日本

# 大人が可能性つぶさぬよう

の学校基本統計によると、女子の4年制大学進学率は女子17・3%、男子35・2%だった。卒業して仕事をしている「理系女性」自体が希少な人たちであり、もっと若い理系おね



あゆかわ・えり 1973年、東京生まれ。総合研究大学院院博士課程修了。2004年から八戸工業大で勤務。植物生態学が専門で、コケ植物の生態や海岸植物が主なテーマ。青森県環境審議会委員などを務める。00~01年の第42次南極観測隊に参加した。

鮎川 恵理 八戸工業大 生命環境科学科准教授

私の友人には、研究職以外の理系女性も多いので紹介したい。工学部卒業後、1級建築士の免許をもち不動産業界で働く人。農学部卒業後、企業で働いた後、社会労務士の資格をとって独立した人。農学部卒業後、地方公務員となったが結婚を機に、旦那さんの出身県に移住、自宅近くの国立研究所の実験技術員をしている人などだ。

口々に理系進路や数学に拒否反応がないのが利点だといふ。おぼさんたちだって、仕事ばかりしているわけではなく、結婚して子供だったり、シングルだったりと、ごく普通の家庭状況だ。

「二つ目の要因は、「女性は理数科目が苦手」という多く、私の「コラム執筆は今回で最後です。進路に悩む中高生のみなさんには、ぜひ理系をあきらめないで、「好きなこと」を続けて、自分の道を切り開いていってほしい」と願っています。

の人の思い込みだ。男性と女性の脳やホルモンなどの生物学的な違いの影響については、研究準上で議論は多い。「文系と理系はなぜ分かれたのか」(星海社・藤枝さや香著、2018年)という書籍では、ジェンダーと文系・理系について述べられているので、興味深い実験を紹介したい。中学生を二つのグループに分けて、一方には「能力は生まれつきのものでなく、成長するものだ」というメッセージを伝えながら数学の授業を行い、もう一方には通常の数学の授業を行った。その結果、「能力は成長する」と教えられた方のグループで男女ともに成績が向上した。ほ

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。